

Section 03

必要な場面を 切り出す・つなげる

編集において場面の切り取り（トリミング）はもっとも基本的な操作です。撮影した動画は上手くトリミングすれば大部分を省略しても意味が伝わります。本項ではトリミングの操作とコツを解説します。

失敗を恐れずどんどん編集しよう

iMovieで扱うデータはカメラロールやミュージックから参照されているので、元のデータを直接編集することはありません。iMovieでトリミングを失敗しても、ブラウザからクリップを再読み込みできますので、積極的に編集しても大丈夫です。トリミング加工はカメラロール側でもできますが、この場合は撮影データを直接加工しますので、失敗すると元には戻りません。



iMovie上でクリップをトリミング・分割・削除しても、元データは傷つかない。積極的に加工しよう。

カメラロールでのトリミング

撮影した動画に明らかに不要な箇所があれば、iMovieで読み込む前にカメラロールでトリミングしましょう。実データを加工するので操作は取

り消せないものの、クリップの時間が短くなればタイムライン上で扱いやすくなり、データが軽くなるので空き容量の節約にもなります。

1 「カメラ」を起動



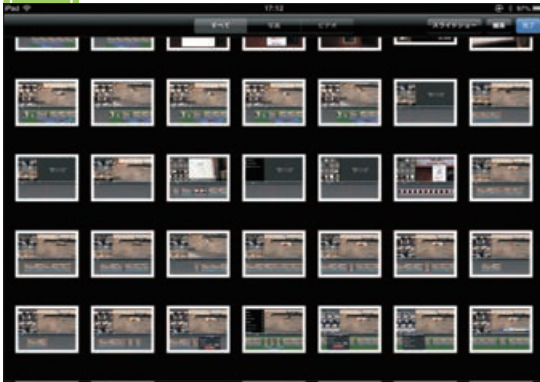
「写真」ではなく「カメラ」を起動して、左下のサムネイルをタップする。

2 「カメラ」からカメラロールを起動



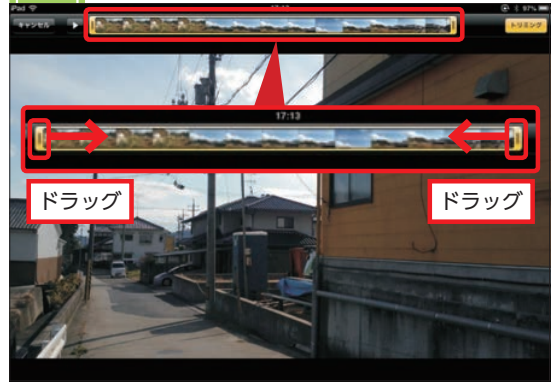
画面の左上「カメラロール」をタップする。

3 トリミングする動画を選ぶ



カメラロールが起動したら、トリミングしたい動画を選択する。

4 動画の長さを変更



再生画面上部のタイムライン左右どちらかの端を抑えて、内側にドラッグする。

5 トリミング範囲を決定



トリミング範囲を指定して、右上の「トリミング」をタップする。

6 トリミングを実行



保存方法を選択する。慣れない内は新規クリップとして保存するのがお勧め。

7 トリミング結果を確認



トリミングが完了したら再生して確認する。新規クリップとして保存した場合、内容に問題がなければ元のクリップを削除しよう。

